出雲大社函館教會
社頭だより

平成二十四年春季号
平成二十四年五月発行
出雲大社函館教會
函館市高松町三二七ー三
電話　五七ー四六七七

◇◇春季例大祭社頭講話ー要旨◇◇

出雲大社の御遷宮

『遷宮』とは、神社の本殿を造営・修理する際や、本殿を新たに建てた場合に、御祭神の御神体をお遷しになることをいいます。社殿の清新な甦生りとともに御祭神の御神威の高揚を願うものです。

いよいよ来年平成二十五年五月十日に宗祠出雲大社御本社（島根県出雲市大社町御鎮座）においては、清新に甦生った御本殿へ大神様にお還り戴く「本殿遷座祭」を迎える事となりました。平成二十年より平成二十八年までを工期として、国宝御本殿をはじめ重要文化財など多数の諸建宇の御修造事業が『平成の大遷宮』として執り行われておりますが、「本殿遷座祭」は、平成二十年四月二十日斎行の「仮殿遷座祭」と共に、この大事業の中心をなす祭事となります。

平成十八年十一月十五日出雲大社御遷宮奉賛会発会式において日本経済団体連合会名誉会長の奥田碩奉賛会会長はご挨拶で、「出雲大社の永い御遷宮の歴史の中で、天文学的な数の先人たちが御造営に結んだ努力があり、その先人の努力の繋がりによって今があり、また今回の御遷宮がある。このように先人たちが永い年月にわたり祈り継いで守り続けてきたこの出雲大社を、そしてそこにある日本の心を、次の世代へと伝えていくのが、今に生かされる私どもの使命である」と述べられ、また、第八十四代出雲国造千家尊祐出雲大社宮司は、「御遷宮という大事は、大神様のお住いの御本殿を新たにさせて戴いて、大神様の御霊威も清新に甦生って戴くと同時に、その昔、神祭りの始めに、祖先が大神様がお住いたる御本殿を整えさせて戴き、御鎮座戴いてお祭りして赫々たる御霊威を戴いたその初発の心に立ち帰り、神祭りの心を祀る側も清新に甦生りさせて戴くものである」と述べられました。まさに、この御遷宮は『祈りの心の継承の甦生り』なのです。

宗祠出雲大社の御遷宮は約六十年に一度執り行われてきました。また伊勢神宮は二十年に一度の式年遷宮が執り行われ、来年は第六十二回目となります。この両古社は来年平成二十五年に、前回の昭和二十八年の御遷宮以来、六十年ぶりにともに御遷宮を迎えます。日本を代表するこの両古社の甦生りは、『日本の甦生り』を具現化したものでもあるようにも思えます。

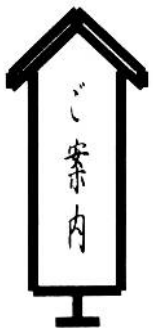
昭和二十八年の両古社の御遷宮は、実は、宗祠出雲大社が昭和十七年、また伊勢神宮が昭和二十四年に予定されていたものでした。ところが、戦争による物資の不足と終戦による混乱のため延期を余儀なくされました。この両社が戦後の混乱の最中にようやくの思いで御遷宮の実現にたどり着いたのが、偶然にも昭和二十八年であったのです。

奇跡とまで言われた戦後日本の復興は、日本の再建を心から神々に願い、力を合わせてひたむきに努力してこられた当時の人々の想いが偲ばれます。両古社の御社殿の甦生りは、まさに戦後日本の復興、甦生りに通じるものでした。日本の再生は、出雲大社と伊勢神宮がともに御遷宮を成し遂げることによって成し遂げられることを昭和二十八年の両古社の御遷宮は示しているといえます。

今まさに、戦後の日本が様々な面で歪みを露呈し、日本の再建（特に日本人の心の再生）が叫ばれているこの時に、両古社がともに御遷宮を迎えることは、神々の深き御神慮によるお導きとしか思えません。

いよいよ来年、六十年に一度の「ハレ」の日を迎えます。多くの方々の御奉賛により宗祠御本殿を始めとする諸建宇の甦生りとともに、更に威を増した大神様の大御恵を多くの方々が蒙ることに繋がります。御神縁をいただいている皆様共々、この日は、神恩感謝「奉祝の祈り」を捧げ、『日本の甦生り』を祈り合いたいと思います。

◇　◇　◇　◇



◆六十年に一度執り行われます平成二十五年五月十日斎行予定の宗祠出雲大社「本殿遷座祭」参列のための参拝旅行（三泊四日）への多くの方々のご参加ご参列をお願い申し上げます。尚、申込み締め切りは、宿泊先手配の都合上、平成二十四年五月末日とさせて戴きます。函館教會までどうぞ。

◇　◇　◇

◎月始祭
毎月1日の午前11時より

◎月次祭
毎月15日の午前11時より

◇お祭りに参列しませんか

◇　◇　◇

御教歌

出雲大社第八十代宮司
千家　尊福公

人の子よ
一節ありて若竹の
世に正直なる
生立もかな

【歌のこころ】

ひとつの事が結実するためには、それに至るまでの小段階を確実にふまえてこそ結実する。私達の周囲をみわたした時に、無軌道な行動をする事によって、小さな家庭の平和を破壊し、社会の秩序を攪乱する若者達の余りにも多い事に気付き、心が暗くなりがちであります。そしてその原因は教育に欠陥があるとか、混迷した社会情勢がそうさせるのだと、責任を転嫁させがちであります。

これから大いに伸び進んでいかなければならない若者達は、自分を生み活かし、伸ばし育ててくれる温かい社会の恩を知り、しっかりと堅実な一節一節（基礎）をつくり、誠実な日々を通して、世の多くの人から信頼される人として成長するように努力をしたいものです。

◎出雲大社の祈りの言葉【神語】

幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ

さきみたまくしみたままもりたまいさきはえたまえ

この「神語」は、出雲大社第八十代宮司・出雲大社教初代管長千家尊福公が明治時代に、出雲大社の御祭神「だいこくさま」を信仰する人々のため宮司家の秘伝をおさとしになったものであります。尊福公は、著書『神語』の冒頭で、「この詞は天照大御神第二の御子天穂日命の伝え給えし神語にして神拝の前後には勿論常にも唱えて神護を仰ぐべきなり」と述べられ、祖神天穂日命以来、出雲国造家に秘伝として伝えられる「神語」の御霊徳を説かれたのであります。この「神語」を一心に唱え、その二十三音の言霊が大神様の幸魂奇魂と感応し、大きな御霊徳をいただけますよう。

例祭

定例の年間祭事

◎元旦祭（新年祈念祭）	1月1日	午前11時
◎節分祭（厄祓・星祭）	節分の日	午後2時
◎春季祖霊社冥福祭	春分の日	午後7時
◎春季例大祭前夜祭	大祭前日土曜	午後6時
◎春季例大祭・祖霊社例祭	5月第2日曜	午後2時
◎夏越大祓	6月30日	午後7時
◎秋季祖霊社冥福祭	秋分の日	午後7時
◎秋季例大祭前夜祭	大祭前日土曜	午後6時
◎秋季例大祭・祖霊社例祭	10月第2日曜	午後2時
◎年越大祓・除夜祭	12月31日	午後10時
◎月始祭・祖霊社祭	毎月1日	午前11時
◎稲荷神社祭	毎月10日	午前8時
◎月次祭・祖霊社祭	毎月15日	午前11時
◎龍蛇神社祭	毎月16日	午前8時
◎日供祭	毎日	午前8時

祖霊社

◎祖霊祭

出雲大社の御祭神、大国主大神の別の御名に、「幽冥主宰大神」という尊称があります。

幽冥とは幽事の世界、つまり霊魂の世界のことです。私たちは誰もが先祖のおかげで命を戴き、今日を生きているのですから、この数限りない先祖・縁者の御霊、さらには幽冥稚児（俗にいう水子）の霊を祀るのは、私たちの当然の義務でしょう。

仏教では、普通の人は一定の年数で、**「弔い上げ」**といい、魂は十万億土の彼方へ行くとし、法要はしなくなります。が、本来日本人の考えでは、死後の霊魂は、子孫が住む近くの草葉の陰や山などに留まり、子孫たちの生きざまを見つめている、と考えました。そして**魂は子孫の魂に働きかけ、甦る**、とされました。

このご先祖たちの霊魂を神として祀り、より高い神の位に昇って戴き、より子孫を見守る霊威を高め、蘇生して戴くための祈りが、祖霊祭なのです。

出雲大社御本社では、これを「祖霊社大祭」として春分・秋分の日には厳かなお祀りが執り行われています。これに準じ、函館教會でも、お祀りを希望された多くの方々のご先祖の御霊を祀り、**霊威の蘇生**を願いご奉仕しています。

◎一般祈祷

○家内安全　○商売繁昌
○交通安全　○身体健全
○厄除祈願　○良縁祈願
○進学成就　○就職成就
○海上安全　○大漁満足
○子宝祈願　○工事安全
○病気平癒　○諸願成就
○出雲大社八方除地鎮祭、上棟祭、新宅清祓、店舗開店清祓、結婚式等出張祭典
○その他諸事の御祈祷も、随時受付けております。

◎特殊祈祷

障り除け、悪霊退散、乳幼児虫封じ等の特殊祈祷についても、ご相談に応じて随時受付けております。

◎通信祈祷

遠隔地にお住まいの方々のために、諸祈願通信祈祷も随時受付けております。

◎お参りの作法

神前に向かい、身を正して心を鎮めます。

一、**一拝**（深いおじぎをします）
二、**祈念**（両手を合わせて頭を下げ、神様への感謝とともに、自分の願いを念じます）
三、**二拝**（二回深いおじぎをします）
四、**四拍手**（両手を胸高にして、四度拍ちます）
五、**一拝**（深いおじぎをします）
六、**神語を三回唱えます**
（胸高に両手を合わせ、深く頭を下げ、心の底から一心に唱えましょう）
【神語】神様から御霊力を戴くことば
幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ
（さきみたま、くしみたま、まもりたまい、さきはえたまえ）
七、**二拝**（二回深いおじぎをします）
八、**四拍手**（両手を胸高にして、四度拍ちます）
九、**一拝**（深いおじぎをします）

◎出雲大社の御神札をお祀り致しましょう

出雲大社で授布している御神札を**「出雲大社御玉串」**と申します。この御神札には親なる神、大国主大神様の御神霊がお鎮まりしています。大神様の御神威を拝礼祈念する「御霊」で朝夕に敬拝することによって、大神様の御守護を戴くことが出来るのです。

また、御神札を戴く敬拝の心は、人間性の向上、家庭の幸福、社会の幸栄をむすぶ「縁」となるのです。

※類似の御神札にご注意！

◎本紙に関すること、その他ご不明な点がございましたら、お気軽に左記宛てお問い合わせ下さい。

出雲大社函館教會
函館市高松町三二七ー三
〇一三八ー五七ー四六七七